

「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のことです。災害時の緊急情報や行政情報の発信はもちろん、普段のコミュニケーションにおいても有効です。

「やさしい日本語」は、その有効性から日本全国での活用が広がっています。

普段使っている言葉を、「やさしい日本語」に変換する際にはいくつかのポイント(P4～)があります。このポイントを抑えれば、誰でも迅速にわかりやすい情報発信をすることが可能です。

「やさしい日本語」ができたきっかけ

1995年1月の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本にいた多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受け取ることができない人もいました。

そこで外国人が災害発生時に適切な行動をとれるよう、災害情報を「迅速に」「正確に」「簡潔に」伝えるために、弘前大学 社会言語学研究室により提案されたのが「やさしい日本語」です。



なぜ「やさしい日本語」なのか

◆災害時の情報発信

災害発生後、外部からの援助が始まるまでに「72時間」を要すると言われています。その間、災害情報をすべての外国語で提供できればよいのですが、時々刻々と変化する情報を、短時間の間に、複数の言語に翻訳することはとても難しいことです。また、短時間での翻訳には「誤訳」が生じる可能性もあります。「やさしい日本語」であれば、災害情報を迅速かつ正確に伝えることができます。



◆多言語での情報発信の限界

福岡市には130か国以上の外国人が居住しており、様々な国の言語に対応していくことには限界があります。「やさしい日本語」を活用すれば、さまざまな国籍の外国人に情報を発信することが可能となります。



◆生活者としての外国人のニーズへの対応

外国人が日本で一定期間生活する場合、日本語を覚えることが生活の利便性を高めると言われています。

比較的短期滞在の外国人にとっても、わかりやすい日本語を示していくことが必要です。



◆日本人にもわかりやすく

外国人だけでなく、高齢者・子ども・障がいを持った人などにもわかりやすく伝えることができます。



日常生活の中で日頃から「やさしい日本語」を使うことが大切です。日頃から「やさしい日本語」を活用し慣れておくことで、災害時にも「やさしい日本語」をより有効に活用できるようになります。

どんなときに使うのか

◆日常生活

自治体や町内会からのお知らせ、広報誌やチラシ、窓口手続き等で活用することで、多言語での情報発信の限界に縛られず、幅広い国籍の外国人に情報を提供することができます。

また、「やさしい日本語」は、普段の生活で出会う外国人とのコミュニケーションでも有効です。まずは、「やさしい日本語」を使って簡単な会話を試みましょう。そのことが、外国人の日本語習得にもつながり、日本で生活する上での喜びや楽しさにつながります。



◆災害時などの緊急時

緊急時、刻々と変化する情報を複数の言語に翻訳し発信することは困難です。災害情報や避難情報を得ることが出来なければ、地震による物理的被害だけでなく、情報の面でも被災してしまいます。自治体のホームページや外国語FM放送、公共交通機関のアナウンス、区役所窓口や避難所等、様々な場面で「やさしい日本語」を活用することで、迅速かつ正確に情報を発信することができます。

外国人も普段から「やさしい日本語」に触れていないと有効性が分からず、いざという時に頼ることができません。広報誌・チラシ・ホームページなど、外国人が日頃からよく目にするツールにおいて、「やさしい日本語」を活用し続けることが大切です。